

東京都地方独立行政法人評価委員会
令和5年度第3回公立大学分科会 議事録

1 日時

令和5年7月4日（火曜日） 午後12時59分から午後3時42分まで

2 場所

東京都庁第一本庁舎33階 特別会議室N2

3 出席者

大野分科会長、梶間委員、杉谷委員、鈴木委員、村瀬委員、最上委員、山口委員

4 議題（審議事項）

- (1) 東京都公立大学法人令和4年度及び第三期中期目標期間業務実績評価結果（素案）の検討

5 議事

●冒頭説明・挨拶

○大野分科会長 皆さん、こんにちは。分科会長の大野でございます。

それでは、大体定刻になりましたので、ただいまから、東京都地方独立行政法人評価委員会令和5年度第3回公立大学分科会を開催したいと思います。

本日も大変お忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。御礼を申し上げます。

本日も本会場に加えまして、ウェブ会議機能を活用してリモートでもご参加いただける、ハイブリッド形式を取っております。この会場には5名、オンラインでは、杉谷委員と山口委員に御参加いただいているところでございます。

本日の会議は、13時から17時までということで長時間の会議になりますけれども、どうか円滑な会議運営に御協力をいただきますよう、よろしくお願ひしたいと思います。

また、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中にもかかわらず、この東京都公立大学法人の令和4年度及び第三期中期目標期間業務実績評価につきまして、大変充実した内容の評

価をしていただきました。誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げたいと思います。

本日の議題でございますが、東京都公立大学法人令和4年度及び第三期中期目標期間業務実績評価結果（素案）の検討、1件でございます。

この案件につきまして非公開にすべき事案はございませんので、全て公開とさせていただきますと思います。

それでは、事務局から、会議の運営の留意点並びに本日の概要、資料等につきまして御説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○田邊大学調整担当課長 事務局の田邊でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

初めに、会議運営の留意点でございますが、先ほど分科会長からも御案内のありましたとおり、本日は、本会場に加えましてリモートでも御参加いただけるハイブリッド形式を取ってございます。リモートで御参加の方につきましては、マイクをオフにさせていただきます、御発言時のみオンにお切り替えいただきますようお願いいたします。また、カメラにつきましても原則オフにさせていただきます、御発言時のみ任意でカメラをオンにいただければと存じます。

資料につきましては、対面の皆様には議事を中心とする資料を、会場のモニターに表示をさせていただきます。オンラインで参加の皆様にも同様の画面をお示しいたします。また、お手元のタブレット端末でも会議資料を御覧いただけますので、画面が映らない等、不具合がございましたら事務局までお声がけください。

続きまして、本日の配付資料についてでございます。まずは本日の議事次第でございます。続きまして、委員の名簿をおつけしてございます。続きまして、本日のスケジュールについてでございます。本日は、都立大、産技大、高専、最後に法人の順に評価の素案の審議を行ってまいります。

続きまして、資料1でございますが、こちらは項目別評価の素案でございます。左側の黄色で網かけをしている部分、評価の素案とあります評定の欄でございますが、こちらは参考となるよう一番多かった評定を括弧書きで記載をしてございます。その横の評価説明の欄でございますが、こちらはいただいたコメントを基に、複数の委員の先生方からコメントのあったポイントなどにつきまして整理をさせていただきます。

続きまして、資料2でございます。こちらは全体評価の素案でございます。こちらは委員の皆様方のコメントを取りまとめさせていただきます。

続きまして、資料3と4をおつけしております。こちらは前回の会議資料と同様でございますが、令和4年度及び第三期中期目標期間における業務実績報告の概要と、資料4が本文でございます。

最後に、資料5でございますが、評価結果反映状況一覧でございます。こちらも適宜御参照いただければと存じます。

事務局からの説明は以上でございます。本日、長時間にわたりますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

○大野分科会長 田邊課長、御説明どうもありがとうございました。

それでは、早速これから議事に入りたいと思います。

まず最初に、本日、評価すべきものが非常に多くございます。大項目だけで35項目、そして評価は年度評価と期間評価ということで、合計で70項目の評価ということでございます。前回の委員会でも御了解いただきましたけれども、あらかじめ事務局で先生方のコメントをまとめていただき、先ほど田邊課長からお話がありましたけれども、評価結果も、資料1の左側に括弧書きで最も評価指標の多い数字を仮で入れさせていただいております。ですので、この評定の結果を修正すべきかどうかということも考えながら皆様方に御確認をいただいて、それぞれの大項目の評価を確定していくと、こういった作業に入らせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

ここまで何か御質問ございますか。進め方等で何かありましたら、大丈夫でしょうか。

(「はい」、「結構です」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。また何かございましたら、適宜御指摘いただければと思います。よろしくお願いします。

・東京都公立大学法人令和4年度及び第三期中期目標期間業務実績評価（素案）の検討（項目別評価：東京都立大学）

○大野分科会長 それでは、まず都立大学で大項目1、教育内容及び教育の成果等についてでございます。

委員別の評定を見ていただきますと2、3、2、2、3、3、2と、2が4つ、3が3つということで、仮で2の評定させていただいております。各委員のコメントで似たようなものは同じ色をつけて、左側にまとめる形で書いていただいているということでもあります。こういった形でまとめたものを改めて御覧いただければと思います。これにつきまして、評定としては

2でどうかということですが、何か御意見等々ございましたらお願いいたします。

○最上委員 1つもし御存じだったら教えていただきたいんですが、多くいいところを挙げている中で、1つだけどうしてもこのK P Iを達成できないというのがマイナス要因と考えており、2とすべきところを3にしているのですが、T Aの単価については御存じでしょうか。これが低いことが一つの理由かなという気もしないでもないのですが、後ほど教えていただけますでしょうか。

○田邊大学調整担当課長 確認すればすぐに分かります。

○最上委員 はい。

○大野分科会長 ありがとうございます。

村瀬委員どうぞ。

○村瀬委員 村瀬です。

私も年度評価は3ですけれども、期間評価は2ですので、年度評価を2にすることに、特に異存はございません。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ごめんなさい、私、言い忘れておりましたが、大項目1、表側が年度評価、裏側が期間評価となっておりますので、年度評価と期間評価を一緒に確認したほうがいいですね。村瀬委員の御指摘で気づきました。ありがとうございます。

少し説明をさせていただきますと年度評価については評定2、裏側の期間評価につきましても2ということで、期間評価につきましても委員別の評価を見ましても6名が2、お1人は1ということで、2でよろしいかという感じでありますけれども、年度評価、期間評価両方合わせましてお気づきの点がございましたらお願いできればと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、大項目1につきましても年度評価2、期間評価も2ということで、委員会として決定したいと思います。ありがとうございます。

続きまして、大項目の2、教育の実施体制等、教育改革を推進する取組の強化になりますが、こちらについて都立大の自己評価は年度評価がA、期間評価がSということです。年度評価について確認しますと2が5人ですかね。それから期間評価については全員が1ということで、期間評価は1ということにしたいと思いますが、いかがでしょうか。ありがとうございます。

それから先日のヒアリングの際に、村瀬委員から、博士課程の充足率あるいは就職率の話が

ございました。後で調べていただいたら、博士課程の充足率は1.0に上がったのですが、それは令和元年の話で、最新の令和4年は0.88だということで、上がってはいるものの、1は超えなかったという報告がありました。それから博士課程の就職率ですが、96%ぐらいで高い数値だったのですが、これは就職希望者のうち進路が決まった方の割合で、それ以外には不明等の方もおられるということで、その部分についてはカウントしなかったといった話がございましたので、御報告したいと思います。

ということで、大項目2につきましては年度評価が2、期間評価が1としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○村瀬委員 すみません、いいですか。

○大野分科会長 どうぞ。

○村瀬委員 期間評価は全く異存はありません。1で結構です。年度評価は2でお願いします。ただ、大学院生の就職状況についてはヒアリングの際にもやり取りさせていただき、あらためて状況を伺いました。ほかの大学ではもっと進路不明が多いと聞いております。都立大はむしろ相対的に少ないほうだと思いますが、少ないと言いながら10～10数%の不明率というのは、大学院に進学しようとしている学生さんや親御さんから見たら、不安に駆られるだろうと思います。拝見させていただくと、都立大では教員への聞き取り調査までされて進路を把握しようとしており、素晴らしい取り組みであると思うのですが、そこまでしても3年間指導した教員が卒業後の院生の進路が分からない。大学院進学を検討されている学生さんにとって将来が魅力的に見えるわけではないと思いますし、ご家族の立場からしても不安になると思います。大学院進学に関しては、都立大としていろいろな支援措置を講じておられる効果も出ていると思いますが、さらに取り組んでいただくと博士課程への進学率は上がるのではないかと思います。日本全国での不明率というのは非常に高く、就職先を100%把握できているということになると恐らく日本の大学でほかにはないと思いますので実現したら画期的だと思います。法人運営の方も含めて、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○大野分科会長 ありがとうございます。

これは推測なんですけれども、留学生で帰国してしまう人については捕捉し切れないということもあるのかもしれないですね。

○村瀬委員 帰国もあると思います。帰国も、そういったカテゴリーをつくっていただければいいと思いますし、いろいろな理由があると思います。大学院の運営には公的資金も投入され

ていますし、進路情報が捕捉できていないということは看過できない課題であると思います。よろしくをお願いします。

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでは、進めさせていただきたいと思います。大項目の3、教育の実施体制等の中の学習支援環境の整備、教育の質の改善でございます。これにつきまして年度評価ですが、自己評価はSとB、期間評価がBとなっております。委員会としましては年度評価を2としております。2と3が少し拮抗した感じでございますが、2としております。それから期間評価について、3が5名、2が2名ということで、3とさせていただいておりますが、これにつきましていかがでございましょうか。年度評価でも期間評価でもどちらでも結構です。

(「異議ないです」、「異議ありません」、「いいです」という声あり)

○大野分科会長 よろしいですかね。ありがとうございます。

では、大項目3はよろしいでしょうか。年度評価が2、それから期間評価が3とさせていただきたいと思います。

続いて大項目の4、学生への支援ですが、自己評価を見ますと、年度評価はBが多く、期間評価はBということです。年度評価、委員の評価を見ますと、これも少し評価がばらけておりますが、3がお1人多いということで3にさせていただいているということです。それから期間評価につきましてはお1人が2ですけれども、ほかの方は3ということで、期間評価については3をつけさせていただいております。いかがでしょうか。ここでは参考意見というのも年度評価に出てきております。このあたりも含めましていかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「結構です」という声あり)

○大野分科会長 改善すべき点も含めまして書いておりますが、よろしゅうございますかね。ありがとうございます。

それでは、大項目の5に移ります。入学者の選抜になりますけれども、これにつきまして年度評価、委員の評価では3が多いということで3をつけさせていただいております。それから期間評価につきましても3が多いということで、3とさせていただいております。いかがでしょうか。

(「大丈夫です」という声あり)

○大野分科会長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

○村瀬委員 これは評定説明には書かなくても結構ですが、事務局にぜひお願いしたいのは、多様な選抜による募集人員の割合も30%を超えて目標を達成されているので、ぜひ次の中期目

標期間ではまた新しい多様化にチャレンジしていただきたいと思います。この上を目指すのか、あるいは割合は30%ぐらいでいいけれども、さらにいろいろなものを取り入れていくのか、ぜひ御議論をいただければと思います。よろしくお願いします。

○最上委員 私も同じように思いました。例えば評定を1にしよう、2にしようと思ったら、目標の数字を上げていくのかどうか、それがいいのかどうかという議論がまず必要なんじゃないかなと。

○村瀬委員 多様化された選抜方式の下で学生さんの入学後の状況をフォローしていろいろと検証されたら良いのではないかと思います。

○大野分科会長 そうですね。ありがとうございます。事務局よろしくお願いします。

○田邊大学調整担当課長 はい。

○大野分科会長 続きまして、大項目の6に移りたいと思います。研究水準及び研究の成果等となりますけれども、まず年度評価は2が4名でお1人多いということで、2とさせていただいております。それから期間評価ですけれども、これについては割れているんですね。1をつけたのが1名、2が3名、3が3名ということでございますので、原案としては2または3とさせていただいております。いかがでしょうか。

○梶間委員 ここは4年目の見込評価では2だったんですけど、3でしたっけ、どちらでしょうか。

○事務局 こちらは見込評価では3をつけております。

○大野分科会長 どうでしょうかね。

○最上委員 多分、評価の分かれ目が引用数のところだと思うんです。この間も申し上げたんですが、結局はトレンドに左右されますよね。例えばトレンドに乗かって研究内容を再編するとか、そこまでのダイナミクスを持っていないわけで、こういうやり方はちょっと評価できないところがあるので、そこをどう見るかですよね。私は3だったんですが、ここはもう少し甘く見ていいのかなと思いましたが2で構わないと思います。年度評価、期間評価両方とも2に上げてもいいのではないかと思います。

○大野分科会長 なるほど、ありがとうございます。

何かほかに御意見ございますか。私は1をつけてしまったんですけども、少し甘かったかもしれないですね。でも、非常によくやっておられたと思います。

杉谷先生、どうぞ。

○杉谷委員 年度評価について確認させていただきたいのですが、改善すべき点のところ引

用率の被引用度が言及されているのは確かなのですが、後半の部分の「学内研究費を効果的に配分するなど」という記載については委員から指摘がありますでしょうか。見た限りないような気がしたのですが。

○大野分科会長 このあたりいかがですか。事務局から何かございますか。

○田邊大学調整担当課長 こちらは事務局で記載を補わせていただいております。

○大野分科会長 委員のコメントではなかったけれども、事務局で気がついたので少し補わせていただいたということなのですが、そのあたりの意図を少し事務局から御説明いただけますでしょうか。

○事務局 大学でもこのあたりの対応方法については、議論を行って検討しているという話もあるので、そういったところをより一層ということで改善につなげていただくという意図で記載しております。

○杉谷委員 すみません、よろしいですか。

○大野分科会長 どうぞ。

○杉谷委員 期間評価で私は、効果的な研究支援の方法を検証し、ということを書いて、それを入れていただきました。研究費の配分のことは確かに都立大学さんが言及されていましたが、それ自体も含めて十分に検証していただきたいという思いで書いたつもりなので、ほかの方が研究費の配分について言及されているのであればやむを得ないかなと思ったのですが、言及されていないのであれば、ここまで具体的に書かなくても良いかと思った次第です。

○大野分科会長 ありがとうございます。「一層推進されたい」ということなのか、そもそもの方法から検証すべきなのか、ということですね。

○杉谷委員 はい。これだと年度評価は研究費の効果的な配分を推進するという感じに読めるのですが、それ自体も含めて検証していただきたいという意図で期間評価では書いていました。ほかの方が指摘をされているのであればいいかなと思ったのですが、ほかの方は特に言及がないようなので、お聞きしました。

○大野分科会長 分かりました。ありがとうございます。

それでは、いかがでしょうか。期間評価の文言に平仄を合わせる形で年度評価でも触れていただくということで、事務局にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○田邊大学調整担当課長 はい。

○大野分科会長 ありがとうございます。そのようにさせていただきます。

○杉谷委員 ありがとうございます。

○大野分科会長 ほかにいかがでしょうか。

どうぞ。

○村瀬委員 私はどちらも2をつけたのですが、サイテーションに関しては最上先生がおっしゃるとおりだと思います。サイテーション件数は下がっていますが、それよりも国際共著論文のパーセンテージが落ちているのが気になります。グローバルという視点で申し上げると日本のアカデミアは研究成果に比して海外のジャーナルへの投稿が少ないのではないかと以前から感じておりましたので、そういったアクティビティーを評価する仕組みがあっても良いのではないかと思います。

ただ、今そういったことを評価する具体的な指標があるわけではないので、今回の件に関しては、外部資金獲得について着実に成果を挙げてきたとか、そういったところを総合的に見させていただいた上で2をつけました。今議論になっております期間評価が2か3かというのは、私は2をつけておりますが強いこだわりはありません。期間評価ですから中期目標期間の初年度からの取組を見て、これは2でいいかなと思った次第です。ただ、要望としては研究成果のグローバル化という視点からの新しい指標に関する議論をしていただきたいということは申し上げておきます。

以上です。

○大野分科会長 ありがとうございます。

鈴木委員、どうぞ。

○鈴木委員 私は期間評価で3にしているんですけども、皆様の御意見を踏まえて、引用率はトレンドに左右されるということですか、あとこれから効果的な研究支援の方法の検証をしていただくということを踏まえると、2としていただいて差し支えないと思っております。

○大野分科会長 ありがとうございます。

○最上委員 話を戻すようで申し訳ありません。先ほどの年度評価で改善すべき点に挙げられている箇所の1文目の文章はいいのですが、2文目、「学内研究費を」というところは、これはむしろ評価すべきところだったと思うんです。そこまでやった、だけど、さらにこう進んでほしいということなので、むしろ褒めておいて一言という感じの書き方で上に上げたほうがいいんじゃないかと思います。

○大野分科会長 検証もしてほしいということですね。ありがとうございます。

山口委員、よろしくをお願いします。

○山口委員 私も年度評価、期間評価ともに2をつけています。確かに被引用度TOP10%論

文等は下がっていたんですけれども、コロナ禍の数年間というのは、自粛が非常に厳しくて研究活動がスムーズじゃなかったことは明らかですので、その中で研究センターなどを設置したり、そういった点においてはすごく評価できるなと思いました。なので、ぜひとも2でお願いしたいと思います。

以上です。

○大野分科会長 ありがとうございます。

先ほどの最上先生の話に戻るんですが、学内研究費の配分等の面ではよくやっていた、さらに研究支援の方法を検証してほしいということで、年度評価の評定説明は記載してはどうかということでもあります。杉谷先生もそういったニュアンスということでもよろしいでしょうか、

○杉谷委員 はい、結構です。

○大野分科会長 ありがとうございます。また、山口先生からお話ございましたように、コロナ禍でもよくやったということで、評価は2でいいのではないかとということでございます。皆さんよろしければ、年度評価も期間評価も2としたいと思います。よろしゅうございますね。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでは、大項目7にいきたいと思います。研究実施体制等となります。年度評価につきましてはおおむね3が多いということ、それから期間評価につきましてもほぼ3となっておりますが、いかがでしょうか。なお、科研費の採択率と金額については、令和4年度に過去最高を記録しているということです。科研費関係は評定説明でも触れていただいているという状況だと思いますが、頑張った、成果も出したということ踏まえた上での3と理解しましたが、よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでは、大項目7につきましては年度評価3、期間評価も3とさせていただきたいと思えます。

続いて大項目の8、都政との連携に移りたいと思います。これにつきましては年度評価がおおむね3が多いということ、それから期間評価につきましてもおおむね3が多いということでございますが、いかがでしょうか。ちなみに都連携の件数は、過去最高を令和4年度に達成しているという実績があるようです。

○最上委員 このままでいいんじゃないかと思えます。

○大野分科会長 いいですね。よろしいですかね。

○梶間委員 そうですよ。こちらの評価基準の3つて計画どおり順調に進んでいるということだったりするんで、決して悪い評価じゃないですよ。

○大野分科会長 そうですね。よろしいですかね。よろしければ大項目8も年度評価3、それから期間評価も3ということにさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

続いて大項目の9、社会貢献等となります。これにつきましては、年度評価は全員が2ですので委員会としても2、それから期間評価につきましてはほぼ2ということですので、委員会としても2ということにさせていただいておりますが、いかがでしょうか。多様なことをやられてきて、皆さん大体2の評価ということですので、よろしいでしょうか。

(「はい」、「結構です」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。それでは大項目9は年度評価2、それから期間評価も2ということにさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

続きまして、大項目の10、グローバル化です。内容としましては教育の国際通用性、学生の海外派遣の拡充及び外国人学生の受入れということになりますけれども、これについて年度評価、についてはおおむね3が多かったので委員会としても3、それから期間評価につきましてもおおむね3が多かったということで、委員会としても3をつけております。いかがでしょうか。コロナがあったということで計画が大きく崩れてしまったという中でも、代替策を講じながらよくやっておられたなということは、皆さん評価されていると思います。何ともこういうときに2とか1とかってつけようがないとは思いますが、十分に取組んだということでの3なのかなと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」、「結構です」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。それでは大項目10につきましては年度評価が3、期間評価も3とさせていただきます。

そして都立大学の最後になりますかね。大項目の11です。同じグローバル化ですが、中身は海外の大学等との連携、都市外交を支えるネットワーク形成、キャンパスの国際化となります。これも年度評価、おおむね3が多かったので3、それから期間評価もおおむね3が多いということで3とさせていただいております。先ほどの大項目10と同じような状況かと思しますので、3ということでもよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。

では、大項目11の年度評価は3、期間評価も3とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

まず都立大学の11項目が終わりましたので、確認をさせていただきたいと思います。事務局もよろしくをお願いします。

まず大項目1ですが、年度評価が2、期間評価も2。

大項目2、年度評価が2、期間評価が1。

大項目3、年度評価が2、期間評価が3。

大項目4、年度評価が3、期間評価も3。

大項目5、年度評価が3、期間評価も3。

大項目6、年度評価が2、期間評価も2。

大項目7、年度評価が3、期間評価も3。

大項目8、年度評価が3、期間評価も3。

大項目9、年度評価が2、期間評価も2。

大項目10、年度評価が3、期間評価も3。

そして最後の大項目11、年度評価が3、期間評価も3ということで委員会としては確定したいと思いますがよろしいでしょうか。

(「結構です」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。

評価の説明等、評定説明等で何か付け加えることがございましたら。

杉谷先生、どうぞ。

○杉谷委員 大項目3、年度評価の評定説明ですが、更なる充実が期待される点、にFDのことが書かれているのですが、これだと参加者数が前年度より下回って、それを増加してほしいということだけの記載になっております。私も含めてほかの先生も、FD関連のことで良い点も含めて書かれているので、そこを生かしていただけたらなと思った次第です。

例えば私ですと、全学FD委員会を通じて部局独自のFD関連セミナーが増加したとか、教育改善が進んでいるということも少し入れたので、たしかこの項目は自己評価がSだったかと思います。更なる充実が期待される点ですので、最上先生もFDのことを少し触れていらっしゃるし、できればいい点も入れていただけたらと思った次第です。

○大野分科会長 ありがとうございます。杉谷先生、最上先生が書かれた文言を入れながら修正をしていただくということでよろしいですか。

○田邊大学調整担当課長 はい。

○最上委員 よろしいですか。

○大野分科会長 はい、どうぞ。

○最上委員 この中で重要なのは、学生と教職員と一緒にFDをやるということで、こういった大学はほとんどないと思います。大概、教職員だけがやって何か盛り上がり過ぎて終わりというのが普通なんです、学生の目があるというのはすごく大事なことだと思うんで、これはぜひ続けていただきたいですし、いいポイントだと思っています。

○大野分科会長 そうですね。たしか何年か前からそういったことをやっておられるとヒアリングで伺ったのを思い出しました。確かに非常にユニークで効果的だと思いますね。ありがとうございます。ぜひ入れましょう。杉谷先生、最上先生の御意見を入れて、更なる充実を期待するというところでよろしくお願いします。

○田邊大学調整担当課長 はい、分かりました。

○大野分科会長 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございました。

それでは休憩となりますが、10分ほど休憩しましょう。今1時40分ですから1時50分まで休憩ということでお願いします。ありがとうございます。

・東京都公立大学法人令和4年度及び第三期中期目標期間業務実績評価（素案）の検討（項目別評価：東京都立産業技術大学院大学）

○大野分科会長 それでは、1時50分になりましたので再開したいと思います。

続きまして、2番目になりますが、東京都立産業技術大学院大学、産技大に移りたいと思います。こちらは9項目ということで、大項目の12からとなります。

大項目12、教育内容及び教育の成果等ですが、年度評価は2が若干多いということで2をつけさせていただいています。それから期間評価につきましては1または2が多いんですが、委員会の案としては2ということにさせていただいております。いかがでしょうか。

（「結構です」、「はい、大丈夫です」という声あり）

○大野分科会長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、大項目12につきましては年度評価2、それから期間評価も2ということでいきたいと思います。ありがとうございます。

続いて大項目の13、教育の実施体制等、中身につきましては産業界や他大学等との連携による教育実施体制の整備、都立大及び高専との連携という項目でありますけれども、年度評価に

つきましては2が若干多いということで委員会としては2、それから期間評価についても2が若干多いということで、2とさせていただいておりますが、これについていかがでしょうか。

○村瀬委員 私は年度評価のみ3をつけましたが、2で結構です。

○大野分科会長 よろしいですか。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。それでは、大項目13につきまして年度評価が2、期間評価も2ということで確定したいと思います。ありがとうございました。

続きまして、大項目の14、教育の実施体制等の中の教育の評価・改善についてです。年度評価については2が多いということで年度評価が2、それから期間評価についても2が多いということで、委員会としては2とさせていただこうと思いますが、いかがでしょうか。

○村瀬委員 異存ありません。

○大野分科会長 こちらも評定説明を読んでも大体皆さん同様の見解かと思しますので、よろしければ年度評価2、期間評価も2ということにしたいと思います。ありがとうございます。

続きまして、大項目の15、学生への支援でありますけれども、年度評価については3が多いということで3、それから期間評価につきましても、3が少し多いということで3とさせていただいておりますが、いかがでしょうか、期間評価は微妙なところがあるかと思っております。

(「よろしいんじゃないですかね」、「結構です」という声あり)

○大野分科会長 よろしいですかね。御意見が特段なければ、大項目15について年度評価が3、期間評価も3とさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

続いて大項目の16、入学者選抜ですが、ここは年度評価について割れているんですね。1が3名、2が3名、3が1名でしたので、原案としましては1と2を併記させていただいております。それから期間評価につきましては全員が1をつけておりますので、こちらは1にしたいということになります。どういたしましょうか、年度評価をどのようにするかというところがあるのですが。

○最上委員 年度評価の3は私かと思いますが、コメントの内容は2の内容なので、私の3を2に変えていただいて、2でいいんじゃないでしょうか。

○大野分科会長 どうでしょうかね。年度評価は2で、期間評価は皆さん1なので1ということにさせていただければと思います。

○村瀬委員 結構です。

○大野分科会長 ありがとうございます。

続いて大項目17、研究に移ります。こちらは3が多いということで、年度評価は3をつけさせていただきます。期間評価も3が多いということで、委員会としては3ということになります。いかがでしょうか。ここには参考意見が入っていますね。年度評価に参考意見が記載されているかと思えます。よろしいですかね。

(「よろしいかと思えます」、「はい、大丈夫です」という声あり)

○大野分科会長 大項目17につきましては年度評価は3、期間評価も3とさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

続いて大項目18、都政との連携になります。こちらにつきまして年度評価は3が多いということで3、期間評価も3が多いということで3とさせていただいておりますが、いかがでしょうか。

(「結構です」、「大丈夫です」という声あり)

○大野分科会長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。大項目18につきましても年度評価は3、期間評価も3とさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

続いて大項目19で社会貢献等ですが、年度評価は2が多いということで委員会の案は2、期間評価も2が多いということで2としております。いかがでしょうか。よろしいですかね。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 それでは、大項目19、年度評価2、期間評価も2とさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

そして産技大の最後になりますかね、大項目20のグローバル化ですが、こちらは年度評価は全員が2、それから期間評価はほぼ2ということですので、両方とも2としたいと思えますが、よろしいでしょうか。

(「はい」、「結構です」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。大項目20、グローバル化については年度評価は2、期間評価も2とさせていただきたいと思えます。

産技大はこれで終わりましたので、おさらいをさせていただきたいと思えます。

大項目12につきまして、年度評価が2、期間評価も2。

大項目13、年度評価が2、期間評価も2。

大項目14、年度評価が2、期間評価も2。

大項目15、年度評価が3、期間評価も3。

大項目16、年度評価が2、期間評価は1。

大項目17、年度評価が3、期間評価も3。

大項目18、年度評価が3、期間評価も3。

大項目19、年度評価が2、期間評価も2。

最後の大項目20グローバル化、年度評価が2、期間評価も2となるかと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」、「結構です」という声あり)

○大野分科会長 確認いただきました。どうもありがとうございました。

ということで産技大が終わりましたが、続けてしまってよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

・東京都公立大学法人令和4年度及び第三期中期目標期間業務実績評価(素案)の検討(項目別評価：東京都立産業技術高等専門学校)

○大野分科会長 それでは、東京都立産業技術高等専門学校、産技高専に移りたいと思います。こちらは大項目の21からでございます。21から29まで9項目となります。

まず大項目21、教育内容及び教育の成果等ですが、年度評価につきましては2が若干多いということで、原案としては2をつけさせていただいています。期間評価については1が多いということで1をつけさせていただいているということでございます。これにつきましていかがでしょうか。かなり頑張っておられるという感じですよ。

○村瀬委員 異存ありません。年度評価についてですが、航空と情報セキュリティに関しては既に概ね達成されているので新たに1というのは少しつけにくいかなと思いました。JABEE達成後のフォローもきちんとされているということで年度評価は2とした上で期間評価は1で良いのではないかと思います。

○大野分科会長 そうなんですよ。達成してしまっていて、定常時に入ってしまったので、1はつけづらかったというのは私も印象としてありました。

○村瀬委員 次の中期目標期間においてもこういったことが起こるのではないかと思います。頑張っておいて目標を達成して、単年度では1となってしまうと、中期としての目標は全うされませんが、何か残りの期間がもったいないですね。

○大野分科会長 そうですね。ありがとうございます。

評価についてはいかがでしょう。よろしければ年度評価は2、期間評価は1とさせていただきます。

きたいと思います。ありがとうございました。

続いて大項目22、教育の実施体制等ということで、中身は教育システムの継続的な改善、他の教育機関等との連携となります。こちらは年度評価で3が多いということで3、それから期間評価についても3が多いということで、委員会としては3の原案になりますが、いかがでしょうか。よろしいですかね。ありがとうございました。それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

大項目の23、教育の実施体制のうちの教育の質の評価・改善となります。こちらについて年度評価は全員が3、それから期間評価については3が多いということで、こちらも3ということで考えておりますが、いかがでしょうか。

(「結構です」、「大丈夫です」という声あり)

大野分科会長 よろしいですかね。ありがとうございました。

続いて大項目24、学生への支援ですが、年度評価は2が多いということで2、それから期間評価についても2が多いということで、2とさせていただいております。いかがでしょうか。

○村瀬委員 これも未来工房はもう前からやっていて既に実績をあげているので、単年度で2をつけるか少し迷って3にしたのですが、期間評価としてはコロナ禍においてもここまでやっておられるということで評価を2とすることで異存ありません。

○大野分科会長 私も村瀬先生と全く同じ印象を持ちましたので、年度評価は3をつけましたが、皆さんがおつけいただいているように年度評価も2でよろしいかと思います。

○村瀬委員 結構です。

○大野分科会長 よろしいですかね。では、大項目24につきまして、年度評価、期間評価どちらも2でお願いしたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、大項目25、入学者選抜ですが、こちらは2が一番多いということで2をつけさせていただいているということです。期間評価も2がほとんどだということで2をつけさせていただいています。こちらはいかがでしょう。これも年度評価は、先ほどまでと同じような印象を持ってしまったので3をつけていますが、2でもいいかと思います。内容的にも皆さん触れられているところは同様かと思いますので、よろしければ大項目25、年度評価が2、期間評価も2とさせていただければと思います。ありがとうございました。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 続きまして、大項目26、研究となります。年度評価は全員が3ということで、年度評価は3、それから期間評価も3が多いということで3とさせていただいております。

ますが、よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。それでは、大項目26、年度評価3、期間評価も3としたいと思います。

大項目の27、都政との連携ですが、年度評価は3が若干多いということで3がついています。期間評価についても3が少し多いということで3をつけさせていただいておりますが、いかがでしょうか。年度評価は3が4名で2が3名となります。私が年度評価が2で高くつけたのは、中学生向けの講座等を評価して2をつけたのですが、特に2にこだわるつもりはございません。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 よろしければ大項目27、年度評価は3、期間評価も3でよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。

続いて大項目28、社会貢献等ですが、年度評価は3がほとんどということで3、期間評価も3が多いということで原案としては3をつけておりますが、いかがでしょうか。

(「結構です」、「大丈夫です」という声あり)

○大野分科会長 よろしいですかね。ありがとうございます。それでは、大項目28につきまして年度評価も期間評価も3とさせていただきたいと思います。

大項目29、グローバル化でありますけれども、年度評価は3が多いので3、期間評価は全員の方が2ということですので2となっておりますが、いかがでしょうか。

○村瀬委員 年度評価は3で結構ですが、期間評価で2をつけた理由は、まだコロナが収まっていない中で海外研修を復活させたことを評価したからです。コロナがなければ計画通りなので3となるんですけども、コロナ禍という困難な状況の下で海外研修を復活させたというのを評価して2と評価しました。ただ、分科会の結論として評価を3とすることに異存はありません。

○大野分科会長 ありがとうございます。復活させるのも大変ですよ。

○村瀬委員 大変だと思いますね。もし何かあったら、責任は誰が取るんだという話になりかねないのですが、学生さんにとっては今しかチャンスはないという点を踏まえて熟慮断行されたことに敬意を表します。よく頑張って取り組んでいただいたと思います。

○大野分科会長 ありがとうございます。それでは年度評価は3でよろしいですかね。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 年度評価は3、期間評価は2ということで、ありがとうございました。

高専も一通り確認することができました。委員会としての確認をもう一度させてください。

大項目21からになります。大項目21につきましては、年度評価が2、期間評価が1。

大項目22、年度評価が3、期間評価も3。

大項目23、年度評価が3、期間評価も3。

大項目24、年度評価が2、期間評価も2。

大項目25、年度評価が2、期間評価も2。

大項目26、年度評価が3、期間評価も3。

大項目27、年度評価が3、期間評価も3。

大項目28、年度評価が3、期間評価も3。

最後、大項目29ですが、年度評価が3、期間評価が2ということで決めたいと思います。御確認よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございました。

それでは、法人運営に進んでもよろしいですか。あと6項目でございますので進めさせていただきます。ありがとうございます。

(「結構です」、「はい」という声あり)

・東京都公立大学法人令和4年度及び第三期中期目標期間業務実績評価(素案)の検討(項目別評価：法人運営)

○大野分科会長 大項目30、組織運営の改善になります。年度評価は3が多いということで3、期間評価も3が多いということで3とさせていただいております。いかがでしょうか。

(「結構です」という声あり)

○大野分科会長 よろしいでしょうか。それでは、大項目30につきまして年度評価が3、期間評価も3とさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

大項目31、組織運営の改善ですが、年度評価はほぼ皆さん3なので3、期間評価については、少し2と3が割れておりますが、3がお1人多いということで期間評価は3としておりますが、どうでしょうか。

(「はい」、「結構です」という声あり)

○大野分科会長 よろしいですか。ありがとうございます。それでは、大項目31、年度評価が

3、期間評価も3とさせていただければと思います。ありがとうございます。

続いて大項目32、事務の効率化・合理化等ということなのですが、年度評価は2が4名で3が3名となりますので、2を原案とさせていただいております。期間評価は全員が2ということで原案2となります。いかがでしょうか。年度評価、私は3をつけましたけれども、働き方改革等々で頑張っていたというのは、確かに皆さんの御指摘のとおりかと思っておりますので、2でもいいかと思っております。よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。それでは、大項目32、年度評価が2、期間評価も2としたいと思います。ありがとうございました。

大項目33、財務内容の改善ですが、年度評価はほぼ皆さん3、期間評価については3が4名、2が3名ですが、3が多いということで3をつけさせていただいております。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」、「結構です」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。それでは、大項目33につきましては年度評価が3、期間評価も3としたいと思います。

大項目34、自己点検・評価及び情報の提供ということになりますが、これについては3が多いということで3につけさせていただいております。期間評価につきましても3が多いということで3とさせていただいておりますが、これについていかがでしょうか。鈴木先生、何かございますか。

○鈴木委員 すみません、こちらカーボンニュートラルの取組のお話を伺ったときに少し印象に残っていたこともあって1としていたんですけども、全体を通して見ると皆様と同じように3としますので、大丈夫です。

○大野分科会長 ありがとうございます。それではいかがですか。ほかに御意見はよろしいですか。大項目34につきまして年度評価が3、期間評価も3としたいと思います。ありがとうございました。

大項目35、最後になりますが、その他業務運営ということで年度評価、ほぼ全員が3ということで3、期間評価もほぼ全員3ということで3となりますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」という声あり)

○大野分科会長 ありがとうございました。それでは、大項目35、最後になりますが、年度評

価3、期間評価も3ということで、法人の評価をさせていただいたということになります。ありがとうございました。

では、最終確認をさせてください。

大項目30について年度評価3、期間評価も3。

大項目31、年度評価3、期間評価も3。

大項目32、年度評価2、期間評価も2。

大項目33、年度評価3、期間評価も3。

大項目34、年度評価3、期間評価も3。

大項目35、年度評価3、期間評価も3ということで確認させていただきました。どうもありがとうございました。

以上で、画面にも出ておりますけれども、全部評定結果が入ったということになります。ありがとうございました。

○村瀬委員 すみません、よろしいですか、1点。

○大野分科会長 どうぞ。

○村瀬委員 大項目33ですが、私と山口先生が2をつけているかと思えます。恐らく山口先生と私で視点は同じだと思うのですが、過去にも委員の方々からOB・OGとのつながりの強化に取り組んでほしいというご意見が相次ぎ、そうした意見も踏まえつつ寄附金を集め、イベントを企画してご支援いただいた卒業生に感謝状を贈呈するなど、法人の皆さんが新しい取組みをしていただいたことを私は高く評価しています。ほかの大学と比較すると金額は控えめかもしれませんが、将来につながっていくことだと思いますので、ここはぜひコメントとして加えていただければと思います。評定そのものには異存ありません。

○大野分科会長 ありがとうございます。私も同様の感覚を持ちましたので、期間評価にはそのような文言を入れさせていただきたいと思えます。よろしく願います。ありがとうございました。では、そのあたり工夫を事務局にお願いしたいと思えます。

○田邊大学調整担当課長 はい。

○大野分科会長 ありがとうございました。

ほかに何かございますでしょうか。追加のご意見等々は大丈夫でしょうか。

(「はい」という声あり)

それでは、この後は全体評価が残っておりますので、少し休憩を入れていただいて、再開は2時30分からとさせていただきます。ありがとうございました。

・東京都公立大学法人令和4年度及び第三期中期目標期間業務実績評価（素案）の検討（全体評価）

○大野分科会長 それでは、2時30分になりましたので、再開したいと思います。

会場の5名の委員は戻っておられます。オンラインの杉谷先生、山口先生、いらっしゃいますでしょうか。

それでは、最後のパートに入りたいと思います。

これまで項目別の評価を審議していただきまして、委員会の最終案ということで確定をさせていただきます。

そこでこれまでの議論を踏まえまして、全体評価についての審議に入りたいと思います。

これが最後でございますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、事務局、田邊課長から資料についての御説明をお願いいたします。

○田邊大学調整担当課長 それでは、資料2を御覧いただきたいと思ひます。全体評価の素案でございます。

こちらはコメントとしていただいた内容をできる限り反映しております。これからの時間で内容につきまして過不足などがあるかを中心に御確認をいただければと存じます。

資料の左上の四角で囲ってある部分でございますが、本日の審議結果を踏まえまして、全体評価の内容から事務局でさらにポイントを絞った項目を抜粋して追記いたします。

全体評価につきまして、御意見や御質問がございましたらお寄せいただければと存じます。よろしくお願ひいたします。

○大野分科会長 ありがとうございます。

そうしますと、資料2の最初のページから、まず年度評価が先に書かれているということになります。

事務局に読んでもらってもいいですか。

○田邊大学調整担当課長 分かりました。

それでは、全体評価案として左側にまとめてある部分、1番が令和4年度の業務実績の総評ということでまとめております。

こちらで読み上げさせていただきます。

令和4年度は、東京都公立大学法人の業務が概ね順調に進められた1年であったと評価する。社会は徐々にコロナ禍以前の状態を回復しつつあるが、コロナ禍を契機に取り込んだ新たな教

育方法を活用し、各高等教育機関が発展的に回復するとともに、それぞれの特色を活かしながらバランスよく教育、研究、社会貢献活動を精力的に行ってきた。

一方で、環境問題や少子化対策等、複雑化・高度化する社会問題の解決に向けた取組や、シニア層を含めたりカレント教育等、高等教育機関に求められる役割は多様化しており、都立の高等教育機関として、いち早くその付託に応えるための活動がより一層推進されることを期待する。

東京都立大学についてでございます。

東京都立大学では、Society5.0時代に求められる人材の育成に対応したプログラムとして、数理・データサイエンス副専攻コースを開講し、想定を大幅に超える86人の新規登録者を得た。

コロナ禍においても、学生が学びを継続し、充実した学生生活を送ることができるよう、図書の郵送対応、eラーニングシステムの改修、オンライン授業の実施体制の整備、ラーニング・コモンズのリニューアル、インターネット接続の回線速度の高速化・セキュリティの確保等、様々な取組を行った。

研究センター所属の教員に研究内容に応じて親和性の高い公募情報を提供するなど、様々な支援を展開しており、センターの外部資金獲得額は、前年度に引き続き過去最高額を更新した。

東京都立大学プレミアム・カレッジにおいて本科の定員を増員したが、3倍を超える志願者があり、合格者全員が入学手続きを行うなど、順調に発展している。

東京都立産業技術大学院大学では、SNSでの積極的な情報発信、教員紹介動画、ロールモデル集等を活用した効果的な広報活動により、大学院説明会参加者は463名にも上り、令和5年度4月入学者の志願倍率は2.1倍に達している。

グローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行っており、基準を満たす修了生の割合が96.1%に達した。

東京都立産業技術高等専門学校は、新たな職業教育プログラムとして導入した情報セキュリティ技術者育成プログラムと航空技術者育成プログラムにおいて着実に修了生を輩出し、その全員が関連する分野に進学・就職している。

品川区、荒川区との協定による特別推薦入試制度は、令和4年度入試より募集人員を増加し、4名の学生を受け入れた。また特別推薦入試の対象となる中学2年生とその保護者を対象に、スクーリング及び特別推薦入試説明会を開催し、特別推薦入試による入学希望者が増加した。

法人の業務運営においては、働き方改革の推進に貢献した取組を表彰する「ワークプラクティス・オブザイヤー」を実施し、働き方改革の機運醸成と職員のモチベーションの向上を図っ

た。カーボンニュートラルの実現に向けて、カーボンニュートラル実行計画策定検討委員会を設置し、教職員や学生からの意見も踏まえ、「カーボンニュートラル推進プラン」を策定した。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ということで、おまとめいただきましたけれども、フリーディスカッションということでお気づきのところから、コメント等をいただけますでしょうか。もう少し付け加えたらいいんじゃないかと、いろいろと御意見を出していただいておりますので、そのあたりを反映したいと思います。

私は大きくまとめた評価だったので、各学校ごとのコメントではなかったんですけど、産技大はPBLや教育方法がものすごくユニークというか、素晴らしいなと思っていて、そういった意味で言うと、村瀬先生が書かれた4点目のコメント、産技大のPBLやアクティブラーニングのあたりのところというのは入れておいてもいいのではないかなと思うんですよ。

産技大はまずは学生募集のこと、次がその学生に対しての能力指標について書かれていて、中身ということではないから、教育の中身についても少し触れてはどうだろうかという印象を持ちました。

○田邊大学調整担当課長 分かりました。

○村瀬委員 大野先生の御指摘も踏まえつつ、後段のアジアの大学連携や人材育成等、グローバルな連携推進についても入れていただきたいと思いました。

あと少し細かいところを申し上げますと、大学院説明会参加者が「463名にも上り」とありましたが、「にも上り」というのは何か目標があって、それを大きく超えたということなのでしょうか。「463名に上り」で良いと思うのですが。

○田邊大学調整担当課長 ここは「463名に上り」という形に訂正させていただきます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○村瀬委員 法人運営についてはOB・OGとの連携強化を評価すべきということを再度申しあげておきたいと思います。法人業務運営におけるカーボンニュートラルの取組みの後で結構ですが、OB・OGとの連携強化に向けた寄附イベント開催、感謝状贈呈などを新たな取組みとして記述していただきたいと思います。

○大野分科会長 ありがとうございます。

そのあたり少し工夫していただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○村瀬委員 最上先生のコメントの中で、学振の特別研究員に5名採用されたとありましたが、これはほかの大学に比べても優れた成果といえるのでしょうか。

○最上委員 すごくいいことだと思います。

○村瀬委員 そうですね。私も十分評価に値する成果であると考えております。

○最上委員 研究を続けられなくて、途中でドロップアウトしてしまうような人がいるのですが、セーフティネットとまではいかないですが、それを法人が支える努力や、支える枠があるということは大事だと思います。

○田邊大学調整担当課長 これも都立大の取組のところに加えましょうか。

○最上委員 法人と大学とどう切り分けているか、法人事務局が一生懸命頑張ってお金を取ってきたから都立大ができたのか、この書き方だと分からなくて。結果として大学院生、ドクターの学生にとっては非常にいいことなので、どちらでも構いません。

○田邊大学調整担当課長 申請の支援は都立大の中での取組ですので、もし入れるとしたら、都立大かと思います。

○村瀬委員 こういった支援に従来から力を入れている大学や、個々の先生方が気を配っておられる大学もありますが、都立大もこういった支援にしっかり取り組んでおられるということアピールしていただきたいと思います。地道な取組みですが博士課程の定員を充足するというだけでなく、学位(博士)を取った後の研究キャリアまで含めて支援していくことで博士課程への進学を考えている学生さんやご父兄が将来のキャリアパスを描けるようにして頂きたいと思います。

○最上委員 いつも評価をやっていて思うのは、文系の活動がどうしても外に見えてこないということがあります。恐らく報告書の書きぶりからすると、文系の大学院生に対してもきちんと支えになっていると思いますので、その点をプラスアルファでうまく書けると良いかと思います。

○田邊大学調整担当課長 事務局が報告書を提出してもらうときもそこを意識して、文系の学部などでの取組が少し見えるような形で報告いただくよう工夫したいと思います。

○最上委員 都立大学って文系の力がすごく大きい大学ですね。先生方の活動も活発ですし、学生の数から言っても文系のほうが大きいです。

○大野分科会長 そうですね。

ほかにいかがですか。お気づきの点等があれば。

大体、よろしいですか。

特段、追加の御意見がなければ、年度評価についてはこういった形で全体評価とさせていただきたいと思えます。

ありがとうございました。

それでは、続きまして、期間評価です。3枚めくっていただきまして、第三期中期目標期間業務実績の総評でございます。

これも読んでいただけますか。

○田邊大学調整担当課長 それでは、第三期中期目標期間業務実績の総評から読み上げます。

東京都公立大学法人の設置する東京都立大学、東京都立産業技術大学院大学及び東京都立産業技術高等専門学校は、技術革新の加速度的な発展に伴う社会経済の変容や感染症、気候変動といった都が直面する課題を捉えながら、それぞれの特色や個性を生かして、第三期中期計画に掲げた教育、研究、社会貢献やグローバル化の取組を精力的に実行し、確かな成果を上げており着実な業務の達成状況にあると評価する。

第三期中期目標・計画期間の後半は、コロナ禍の影響により、計画策定当初に予定していた事業の内容を大幅に見直さざるを得ない状況が生じたが、オンラインを有効に活用するなど、知恵を絞って新たな方策を編み出し、目標達成に向けて鋭意努力してきた。

コロナ禍が収束しつつある一方で、少子高齢化や脱炭素化など待ったなしの課題が山積する中、2大学1高専はいずれも、コロナ禍の経験で得た教育研究の新たな方策など、第三期の成果を活用するとともに、第四期の取組の柱に掲げる多様なステークホルダーとの連携・協働を一層推進しつつ、次のステージへと進もうとしており、こうした工夫や取組を発展させ、更なる教育研究成果の創出につなげていくことを期待する。

東京都立大学では、教育研究資源の集約や先端分野の強化を図り、新たな時代の要請に応えるため、平成30年度に教育研究組織の再編を行った。また、異分野の知を融合し、新たな価値を生み出す能力を育成することを目的として、大学院において専攻が異なる学生が参加できる分野横断プログラムを平成30年度に開設するとともに、Society5.0に対応した人材育成を目的として、令和4年度から全ての学部・研究科の学生を対象とした数理・データサイエンス副専攻コースを開講した。

平成29年度に設置した教学IR推進室において、教学IRシステムの運用を開始し、学内の各委員会や部局等からの依頼に応じてデータを解析するほか、教職員一人一人が教学に関するデータにアクセスして分析することを可能とする全学的な教学マネジメント体制を整備しており、入試区分ごとの入学後の成績分布に関する分析結果を基に入試制度を見直すなど、データ

に基づく教育改善を積極的に推進している。

博士後期課程の活性化に向けて、博士研究員制度等の導入、大学院キャリア形成科目の開講などの取組を実施するとともに、文部科学省の科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業や、国立研究開発法人科学技術振興機構の次世代研究者挑戦的プログラムへの採択などにより、博士後期課程学生への経済的支援とキャリア形成支援を拡充し、若手研究者の育成に向けて多様な取組を展開している。

課外活動における安全管理については、第三期中期計画期間中に同一の課外活動団体で事故が繰り返し発生したことを踏まえ、再発防止策のためのPDCAサイクルの確立など、安全性確保に向けた取組の強化が図られることを求める。また、健康診断の受診率について、令和元年度の87.9%から令和4年度は60.4%まで低下したことから、コロナ禍の影響があったことを踏まえても、今後の受診率向上に向けた方策の検討や、社会人学生の学外での受診状況の把握等、更なる取組の充実を求める。

国際的研究拠点の形成を目指す研究センター所属の教員に、研究内容に応じて親和性の高い公募情報を提供するなど様々な支援を展開しており、センターの外部資金獲得額は、平成26年度から平成28年度の平均獲得額比で、令和4年度には目標の150%を大幅に上回る205%を達成した。

一方で、被引用度トップ10%論文の比率（過去5年平均）は近年減少傾向にあり、令和5年4月1日時点では、8.6%と目標を下回る状況になっている。効果的な研究支援の方策を検証し、研究力の強化を図る取組の推進を期待する。

東京都との連携を推進するため、行政ニーズと研究シーズとのマッチング機能の強化に取り組んでおり、都連携事業の件数は令和元年度に大幅に増加し、その後高い値を維持している。社会との価値共創を取組の柱に掲げる第四期中期目標期間においては、都政の重要課題をテーマとして設定し、教育、研究、リカレント教育など幅広い分野で大学を挙げて取り組むなど、都立の大学ならではの取組を一層推進することを期待する。

令和元年度に、シニア世代をターゲットとした新しい学びの場である東京都立大学プレミアム・カレッジを開講し、大学が有する教育研究資源を活用した多様なカリキュラムを提供するとともに、専攻科などコースの拡充を順次進め、最長4年間学び続けることができる学修環境を整備し、志願者も安定的に確保するなど生涯を通じた学びの充実に貢献している。

留学生の受入れについては、コロナ禍の影響により、取組の変更を余儀なくされたが、積極的な海外プロモーションや短期受入プログラムのオンライン実施等の取組を継続し、600人程

度の留学生数を維持した。コロナ禍収束後の留学生受入れの回復に向けた取組に当たっては、留学の「質」を重視し、受入れ環境の整備に取り組むとともに、多様化を図る取組についても更なる強化が望まれる。

産技大では、運営諮問会議の答申に基づき、令和2年度から、1専攻3コース体制への研究科再編を行い、企業における新規事業開発や起業・創業を担う人材を育成する新しい学位プログラム（事業設計工学コース）のカリキュラムを着実に実施するなど、実践的な教育を推進している。

産技大独自の先駆的なPBL型教育について、A I I T P B L M e t h o dとして体系化するとともに、日本語に加え英語でも紹介し、ホームページで公開するなど、国内外に広く発信しており、その特色ある実践教育は認証評価においても高く評価されている。

教員の教育能力の向上を図るためのFDフォーラムについて、第三期中期目標期間中の全ての年度において全教員が参加し、教育の質の改善に取り組んでおり、学生による授業評価アンケートにおいて、全ての年度で5点満点中平均4点以上の高い評価を得ている。

SNSでの積極的な情報発信、教員紹介動画、ロールモデル集等を活用した効果的な広報活動など、様々な取組の工夫を図ることで、志願倍率は安定的に推移し、令和5年度4月入学においては2.1倍まで高まるなど、高度専門職業人にふさわしい学生を確保できている。

A I I T単位バンク制度や履修証明プログラムを着実に実施するとともに、同時性・双方向性を確保したオンライン授業と録画を用いたオンデマンド授業を組み合わせ、社会人が学び直しを行いやすい環境の整備を推進し、充実したリカレント教育の場を正規学生以外にも広く提供している。

また、修了生に対しても、修了後の継続的かつ自主的な学修と研究の機会を提供するA I I T修了生コミュニティを設置し、継続した学びの支援を行っている。

アジア諸国等とのネットワークを生かし、海外大学と連携したセミナーの共催やPBLを実施するなど、グローバルに活躍できる高度専門職業人を育成するための取組を着実に推進している。

また、コロナ禍においてもオンラインツールを活用し、国際シンポジウム、共同研究、学生や教員の交流等、多彩な活動を行った。

産技高専では、新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成を目指し、令和3年度に品川キャンパスのコースを再編し、A I スマート工学コースと情報システム工学コースを開設するとともに、荒川キャンパスにおいて、医学と工学の融合をテーマにI o TとA I技術の社

会実装について学ぶコース横断の未来工学教育プログラムを開講し、多くの履修希望者を集めている。

社会の人材ニーズを踏まえ、情報セキュリティと航空技術の2つの職業教育プログラムを軌道に乗せており、専門的技術を身につけた修了生を着実に産業界へ送り出している。

課外活動においては、学生グループによる課外活動経費の一部を助成する未来工房プロジェクトや、クラブ活動の指導内容の充実等を図るクラブ活動指導員の導入など、多様な支援を実施することで、課外活動が活性化しており、全国大会への出場などでの成果につなげている。

ホームページや各種SNSを活用した積極的な広報活動を展開し、公式コンテンツのアクセス数・フォロワー数を増加させている。また、女子学生の確保に向けて、イベントでの情報発信、ホームページにおけるコンテンツの見直し等を継続して行い、女子学生数が着実に増加している。一方で、一般入試の志願倍率が、令和3年度入試以降、2倍を下回り、伸び悩んでいることから、回復に向けた更なる取組を期待する。

外部資金獲得のための支援として、若手教員を対象に応募書類添削や動画講座配信を専門業者に委託するとともに、都立大と連携した支援が行われている。一方、教員の資質向上のため設けられている特別研究期間制度については、年間4名の取得を可能とする制度改正が行われたが、実績としては最高でも年間2名であった。校務分掌への配慮や取得促進に向けた働きかけなど、教員の教育力・研究力の向上につなげていくことを期待する。

2つの海外体験プログラムについて、中期目標期間の初年度から参加者の目標70名を達成しており、コロナ禍においてもオンラインを活用したプログラムに変更しつつ、令和3年度と令和4年度は50名以上の参加者を得るなど、様々な努力や工夫を行いながらプログラムを遂行した。

令和2年度に、大学名を「東京都立大学」及び「東京都立産業技術大学院大学」に、法人名を「東京都公立大学法人」に変更し、名称に「東京都」を冠することで、ステークホルダーがより明確となった。「都立」の高等教育機関として、東京都等との連携強化に向けて組織体制を整備し、連携実績を平成30年度までの年間100件程度から、令和元年度以降の170件程度にまで大幅に伸ばした。

大学高専連携の推進に向けて、令和元年度に法人及び2大学1高専の事務職員によるワーキンググループがつくられ、現場教職員との情報交換・意見交換の機会が設けられている。法人事務局には、都立大、産技大、高専の「橋渡し役」として、2大学1高専の連携事業の将来的な目的・シナジー等の明確な戦略性や方向性を各校に示すことを期待する。

コロナ禍を契機として、在宅勤務の導入など、働き方の見直しや業務の効率化が進められており、令和3年度には、働き方改革推進計画の策定や業務見直しのために全職員を対象に意見聴取を行い、意見を踏まえた業務の合理化が図られている。

また、令和4年度には、職員表彰制度を導入することで、働き方改革の機運醸成と、職員のモチベーションの向上を図るなど、自発的な業務改善が推進されている。

コロナ禍における困窮学生への経済支援を目的とした基金の創設を契機として、寄附金の獲得に向けた取組が活性化されており、都立大同窓会組織との包括連携協定の締結、寄附金受付システムや顕彰制度の導入などにより、寄附金実績の拡大を図っている。コロナ禍での寄附金獲得において構築した卒業生との関係を一過性のものとせず、タイミングを逸することなく速やかに取組を実施することを期待する。

近年、大学院入試問題漏えい、課外活動における事故、火災事故、情報セキュリティ事故等が発生していることは残念である。これまでに生じた事故・事件を受けて、危険物に関する安全対策、情報セキュリティ対策など、事件・事故を防止するための様々な取組を強化してきたところだが、事故を繰り返さぬよう、取組の定期点検や風化防止など、法人一丸となって各種再発防止策を徹底していただきたい。

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでは、期間評価について御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

どうぞ、村瀬先生。

○村瀬委員 都立大学課外活動の安全管理についてです。内容はおおむねこれで結構ですが、できれば再発防止策のためのPDC Aサイクル確立など、安全性確保に向けた取組み強化と定期的な点検活動実施、というところまで記述していただきたいと思います。風化防止も視野に入れた上でフォローアップしていただければPDC Aサイクルは完結すると思います。

あと、博士後期課程の活性化について、文部科学省やJSTプログラムに言及されることも良いのですが、先ほど最上先生がおっしゃったように、博士課程に進学する方々や、博士課程修了者を評価する側である我々企業サイドから見ても、学振の特別研究員に採用されたということは高く評価するに値することだと考えます。

こういったプログラムの実施ももちろん重要な成果ですから、記述していただくべきだと思いますが、日本学術振興会特別研究員は世の中で広く知られた制度ですし、こちらも含めて取り組んで成果を挙げているというこを記述していただいたほうが良いと思います。

なお、産技高専の志願倍率が2倍を下回っているということが大変残念です。優秀な人材を

輩出しており、実力のある高専なのでぜひ回復していただきたい。

私からは以上でございます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでございましょうか。

○最上委員 今の村瀬委員の発言について、学振の申請書の作成を手伝うという記載が年度評価の方にあっただと思います。

○田邊大学調整担当課長 そこを同様に追加いたしましょうか。

○最上委員 そうですね。

○大野分科会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○最上委員 産技大の下から2つ目の箇所、社会人が学び直しを行いやすい環境の整備を推進し、充実したリカレント教育の場を正規学生以外にも広く提供しているという記載について、正規学生以外というのが思いつかなかったのですが、具体的にどういったものを指していますか。

○事務局 単位バンク制度であったり、履修証明プログラム自体が正規学生以外を対象としておりまして、ここは説明的に事務局で付け加えさせていただいたところです。

○大野分科会長 単位バンクは象徴的なのでそういった文言を入れても良いかと思いますがいかがでしょうか。

○最上委員 そのほうが良いと思います。これだと漠然として少し分かりづらいかと思いますので。

○田邊大学調整担当課長 ここは少し言葉を補って修正しましょうか。

○大野分科会長 そうですね。具体的なイメージが出るように修正をお願いします。

少し私からですが、この6年間のうち3年間はコロナ禍だった。これはすごく大きなことで、全体としてはコロナのことを2点目に書いていただいている、よくやったね、いろいろな工夫をしたねということなのですが、各校の記載を見ると、都立大には何も書いていないです。

例えば鈴木先生に書いていただいたことで言うと、コロナ禍におけるICTを活用した学習環境の整備ですとか、法人については奨学金について書いてあるのでいいと思うのですが、こういった努力を、各校1つ項目を作って入れてもいいのかなと思いました。

産技大にはコロナ禍においても海外との連携をしたことや、高専にはグローバル化のことも書いてあるのですが、それ以外でもやっているかと思います。特に産技大の場合には今までも

っとオンラインの教育をやってきたので、それがものすごく活かされた形でコロナ禍をうまく乗り切れた。

元々先進的な教育をやっていたということが今回のコロナ禍での対応に役立ったというのは、やはり素晴らしかったと思うので、そのあたりも入れてみたらいいかと思います。

○田邊大学調整担当課長 分かりました。ありがとうございます。

○大野分科会長 これに関連して、総評の2点目で、コロナ禍での対応について書いてあるのですが、「鋭意努力してきた」だけではなくて、「高く評価できる」といったことを最後に少しつけるだけで印象が変わるのではないかと思うので、よろしくをお願いします。

○田邊大学調整担当課長 分かりました。

○大野分科会長 ほかにいかがでしょうか。

鈴木先生、どうぞ。

○鈴木委員 今のお話に関係するかもしれないですけども、コロナ禍での対応により学習の仕方に大きく変化があって良い効果があったという議論を思い出しまして、前段で大野先生がおっしゃったとおりなのですが、コロナで大変だったことだけではなくて、新しい教育のスタイルにつながったという、前向きな表現があってもいいのかなと感じました。

○大野分科会長 そうですね。ありがとうございました。

それが今後につながっていく、と書いていただけると、明日が見える、将来が見える、その成果をうまく今後を活用したいいただきたい。せっかく頑張って取り組んだので、後戻りしては困るということで、元の教育に戻りますというのは全然意味がないと思いますので、そういった書きぶりがあるといいのかなと思います。せっかくいいものを作ったので、これを今後の新たな教育に活かしてほしいと考えます。

○田邊大学調整担当課長 全体総評の2つ目のところを少し膨らませて、そういったことを含めるような形で修正いたします。

○大野分科会長 そうですね。

それでよろしいですか。鈴木先生。

○鈴木委員 はい。

○大野分科会長 ほかにいかがでしょうか。

○山口委員 山口です。

グローバル化の中で、職員に対しても法人全体でTOEICの点数の基準を設けているというのがすごい取組だなと思いました。本当にグローバル化をしっかり積み上げているという点

で、素晴らしいと思ったのですが、これは世間的には普通の動きなのでしょうか。といったところが分からず、いかがでしょうか。教職員ともに体制をつくっていることは素晴らしいなと思いました。どこに書いたらいいかとは思っておりますが。

○大野分科会長 教職協働ということだと、法人が推進しているのでしょうかね。

○田邊大学調整担当課長 働き方改革もそうですけど、職員と教員が協力して取り組んでいるところがあるので法人かと思います。

○大野分科会長 それはとても大事な視点でね、本当に。

職員全体の法人の取組としてTOEICの事例を出して、教職協働で取り組んでいることは非常に素晴らしいので、今後も推進していただきたい、といった感じで入れてみてはどうでしょうか。

○田邊大学調整担当課長 分かりました。

○大野分科会長 山口先生、どうもありがとうございました。そんな感じでよろしいですか。

○山口委員 ありがとうございます。大丈夫です。

○大野分科会長 いかがでしょうか。期間評価は大体このような感じでよろしいでしょうか。

(「はい」という発言あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。

御指摘の点について、少し修正をお願いします。

最後になりますでしょうか。15ページになります。

3の第四期中期目標期間に向けた課題、法人への要望などということで、5点ほどまとめていただきましたので、田邊課長読んでいただけますでしょうか。お願いいたします。

○田邊大学調整担当課長 2大学1高専の連携について、各校のミッションを踏まえつつ3校が連携すればこそ得られるシナジー効果を見出すべく、法人において各校のリソースなどを分析しながら、2大学1高専の連携戦略が設計されることを期待する。また、2大学1高専と都との連携においても、連携の目的、メリット、コスト等を分析しつつ、法人部門が率先して、連携事業を戦略的に管理・推進していくことが期待される。

定量的な指標や計画の達成だけにとらわれ、教育研究活動が形骸化することのないよう、実行可能な計画の検討と取組の実施、場合によってはコストに見合った取組であるかどうかを改めて検証しつつ社会の変化に応じて柔軟に対応していただきたい。

カーボンニュートラルの実現や働き方改革の推進などの取組について、教職員・学生等に周知・認知されているかどうか、点検、効果測定、フィードバック等、取組を実施した後のフォ

ローを行っていただきたい。特に重点的に取り組むべき課題については、連絡会を設置するなど、法人組織全体として取組を進めていただきたい。

中期計画上の達成目標について、年度ごとのマイルストーンを示していただきたい。また、目標の達成以降、どのような活動をするかも併せて示されることが望ましい。

第四期中期計画では、東京で活躍する多種多様な主体と連携し、都が抱える政策課題と2大学1高専の専門的知見とを結びつけ、解決策を提示していくこととしており、地域でボランティア活動を行っている学生や都政課題の解決に取り組む大学・高専発ベンチャーと協働するなど、学生やOB・OGなどとも連携しながら、新たな価値の創造に取り組んでいくことを期待する。

○大野分科会長 ありがとうございます。

いかがでございましょうか。御意見を自由にお願ひします。

○最上委員 これは変更ということではなくて、前から思っていたことなんです、2点目について、自分ができることをよく考えて、コスト等も考えて計画を立てなさいということなのですが、こういう書き方でいいのでしょうか。

科研費申請のエフォート率のように、今年度はこのあたりにエネルギーを注ぐんだという、そういった意思表示はあってもいいのかなと思っています。例えば高専に対してグローバル化を要求するというのは、そんなにいいことなのだろうかと私は思っていて、高専だったらグローバル化は置いておいて、ものづくりに注力するんだ、といったエネルギーの分け方を書かせるような、そういった計画の立て方があってもいいのではないかと思っています。

○大野分科会長 いろいろな目標の中でももちろん濃淡はあるかもしれないけど、力を入れるものとそこまでではないものがある。それから、マイルストーンと書いてありますけれども、リソースは限られているので、中期目標期間の6年間の中でこの時期はこれに力を入れて、もう少し時間が経ってこれがうまくいき始めたら別の項目に力を入れて、といった感じのメリハリみたいな、そんなイメージでしょうか。

○最上委員 そうですね。特に今まで年度計画がきちんと立てられていて、それに対する報告を書かなきゃならないという面もあったので、みんな平行して報告が上がってきていると思うのですが、年度計画のようにきっちり計画を立てるといって、3年間程度でアバウトとは言わないですが、大まかに道筋がつくられるような、ここにエネルギーを注入するんだということが分かるストーリー立てができるような計画を立てられればいいですね。

○大野分科会長 ガントチャート的なものではなく、大体の線表を引いて、このあたりでこれ

を実施してみたいな表でもいいですよ。今は常に全力疾走という感じになってしまってますよね。

○最上委員 それをやらなくてもいいのではないかと思うところが結構ありますよね。

○村瀬委員 これは評価項目のウェイトづけにも問題があり、どの法人もフルセットの評価項目を一律に並べておられるからではないでしょうか。グローバルへの取組みもそうですが、高専におけるグローバルと都立大や産技大におけるグローバルではその意味がそれぞれ異なると思います。研究活動についても同様ですが。

○最上委員 そうですね。

○村瀬委員 毎年の評価に際し、高専における研究活動を都立大の研究活動と同列に並べて評価することにどのような意味があるのだらうと思っていました。高専における研究活動を否定したり、評価しないという意味ではありません。産技大の研究活動についても同様です。

例えば高専だったら、3年とか5年ぐらいの長いレンジで見れば良い項目がある一方で、入試倍率や志願者数は各校共通の目標なので、その実績は毎年フォローしていくなど、もう少しメリハリがつかないと資料を準備される方々の負荷も大変じゃないかなと思います。

○大野分科会長 ありがとうございます。

そのとおりでと思います。

○村瀬委員 留学生の多様化については今回明記していただき、ありがとうございます。次の中期目標期間では留学生に限定せず、「多様な」というキーワードをより広く評価指標として入れていただきたいと思います。先ほど申し上げた目標の多様化についても同じような意味合いであり、個々の学校が一律に同じところを目指すのではないということです。

一方で、課題で言いますと、以前からこの分科会で話題となっていた認知度向上や情報発信力強化をどのように進めるかが重要であると思います。これは過去の分科会においても委員の皆さんから同様の意見表明が繰り返しございました。研究、教育の取組みとしてこんなにすごい成果を挙げているのになぜ世間では知られてないんだらうということです。次の中期目標にもしっかりと入れていただきたいと思いますし、一番頑張っていただくのは恐らく法人運営に従事されている方々になるだらうと思っています。

4点目の「目標を達成したら次はどうするか」ということは最上先生もおっしゃっていましたが、これまでも短期間で中期目標をクリアしてしまったケースがあり、その場合にはどうするかという議論はふだんから想定しておいたほうが良いと思います。

最後の5点目について、法人運営の方に以前から申し上げていて、ぜひ考えていただきたい

のは、都立大、高専、産技大出身の優秀な人材を都政に引っ張ってくるという点です。優秀な人材はいずれの組織でも欲しい人材のはずなのですが、私自身が東京都の納税者の立場からいっても優秀な人材を都としても確保していただきたいと思っております。

先日もなぜ特別な制度を設けて高専や都立大出身の優秀な人材を獲得しないのかとお尋ねしたのですが、普通の組織であればまず最初に考えるのがそれではないかと思えます。優秀な人材を社会に送り出すことも大事なのですが、納税者の視点から見ても都民の税負担で育てた優秀な人材のうち何人かは都として確保した方が良くと思えます。

都政との連携について評価する際、評点3以外がなかなかつかない中で、優秀な人材の確保という視点を新しく入れていただきたいと期待しています。

また、細かい話で恐縮ですが健康診断受診率については教職員の方も含め、ぜひ100パーセントを達成していただきたいと思えます。

なお、評価の仕組み自体はもう少しシンプルにした方が良くと思えます。

法人の方々には1や2の評価をつけることができるような取組を期待しています。何か新しい施策にチャレンジしていただけたらその取組を大いに評価いたします。よろしく願いいたします。

○大野分科会長 ありがとうございます。

杉谷先生、お願いします。

○杉谷委員 今のお話を伺っていて思ったのですが、これだけの評価活動を毎年度やっていらして、本当に頭が下がるなという思いがございませう。

その旨を第三期中期目標期間の業務実績の総評の最後に少し入れたかと思えます。取組の一つ一つはもちろんのこと、中期目標期間にわたる業務実績の絶えざる自己評価と詳細かつ膨大な業務実績等報告書の作成に当たって、関係者の尽力に敬意を表する、といった文を入れたので、何かしらそういった内容を入れていただけるとありがたいと思えました。

というのも、第四期中期目標期間の課題の2点目で、コストに関することを書いたのも私なので、この点と対応させる意味でも、評価制度自体が見直される中で、これだけの御努力を評価するとともに、今後は重点を置くポイントをある程度絞り込むという形でやっていただくのが望ましいかと思っております。

あとは形式的なことですが、課題に関しては、今、挙げた2点目や4点目は割と抽象的な内容がある一方で、具体的な御提案もあるので、並び順を変えてもいいのかなと思えました。

以上でございます。

○大野分科会長 まさにおっしゃるとおりだと思います。これだけの評価を6年間続けてきているということについて、敬意を表するというのはとても大事なことだと思います。

一方で、今後、同じ評価方法を続けていくのは、少し難しいのではないかとすることを示唆する内容も要望として入れておくということ、私も大賛成です。皆さんも恐らく同じ考えだと思いますので。

ほかにいかがでございましょうか。

山口先生、何かございますか。よろしければ、お願いします。

○山口委員 先ほども少し話が出ましたが、各校の取組を全て共通で設定するのもどうなのか、といった点、何を共通事項にするかは、各校からこれを共通事項にしたいといったことを上げて、法人が項目を設定していくのがいいかと思っています。法人が各校に下ろすのではなくてボトムアップで共通課題、共通事項を設定するのがいいかと思いました。

例えば、TOEICの点数の基準を職員全体で定めているのはすごいと思ったのですが、高専では、今後高校の教育が次々と変わって英語に触れる学生・生徒が増えていく中で、そこをどう生かしていこうかですとか、各校それぞれ状況が変わっていくこともあるかと思しますので、各校から目指したい目標をボトムアップで上げて行って、法人がまとめていくというスタイルが良いかと思った次第です。

○大野分科会長 貴重な御意見をいただきありがとうございます。まさにそのとおりだと思います。

それぞれの学校のアイデンティティですとか、ミッションですとか、こうしていきたいんだということをしっかり持っていただいて、それを主張していただいて、夢を実現していただきたいと思います。それを支えるのが法人であるということを改めて認識していただくことが必要だと思います。

○山口委員 例えば都立の学校に所属する者として、グローバル化にしっかりと貢献しているという気持ちを持って、前向きに取り組むことができればいいとも思いますし、その一方で、目標や求められることが大きな負担となったりミッションとずれてきているということであれば、今度はそれに代わる別のところ、自分たちの学校はここを目指したい、といった議論もあって良いかと思えます。

○大野分科会長 ありがとうございます。

本当にボトムアップは大事だと思いますので、そういったことを踏まえながら柔軟に調整していくということを法人に期待したいと思います。

○山口委員 ありがとうございます。

○大野分科会長 そのあたりのニュアンスも入れていただければと思います。

○田邊大学調整担当課長 そうですね。少し内容を入れ替えたり、いただいたエッセンスを入れ込むような形で考えたいと思います。

○梶間委員 感想になりますが、委員として初年度の評価をやってみて、中期目標期間の評価といってもどちらかという学校教育法の認証評価に近い印象を受けました。

法人全体、各校についての業務運営の効率化ですとか、効果的なお金の使い方ですとか、そういうところを見るのも委員の仕事と感じております。自分の職業だから言うわけではないのですが、数値面の経営計画と連動するとか、または効率的な業務運営が見えるとか、そういった指標があるといいかと思えます。

僕は学校教育法の認証評価の専門ではないので、学校教育法の認証評価とどれくらいオーバーラップしているのか分かりませんが、もう少し法人全体のお金の使い方の効率性だとか、効果的になっているかですとか、そういったことが見えると良いかと思いました。

学校教育法の認証評価と違って法人全体の経営計画の評価ですので、地方独立行政法人法における評価ではそういったところも主眼にあたりするのではないかという気もしました。

○大野分科会長 そうですね。そのあたりが水面下に隠れてしまってますね。いいことはどんどんやっていくけども、そこにどれだけのお金がかかっているかですとか、どれだけの年数がかかっているかですとか、ある意味疲弊しているのか、といったパフォーマンスがどうなっているのか、ということも、実は見えていないですね。

これは大学にありがちな話で、教学 I R で教学効果がどうなっているかは見るけど、本当は経営 I R と合わせて見ないといけないですよ。これだけの教育成果が上がっているけど、そこにどれだけの人員とお金がかかっているか、ということを実は見ないといけない。実は都立大だけではなくてどこの大学もできてない。I R や教学と、経営が合体したデータが出てこないといけないけど、さすがにそこまではできてないですよ。

梶間先生がおっしゃるとおりで、これは I R ができて以来長い間、主張し続けているのですがなかなかここまで来ないですね。これを今すぐに次の第四期中期目標期間でやろうという話になると、少し難しい部分があるかもしれません。

○梶間委員 方向性としてはお願いしたいというか、考えないといけない課題かと思いました。

○大野分科会長 定量的にデータをそろえるところから始めないといけないですね。

○梶間委員 一般的に言うと、都内からの入学率とか都内への就職率とか、教育の質だったら、

シンプルに中退率というのを指標の例として以前お話ししたのですが、何かいい物差しがあって、公費の使い道と取組が連動しているのが見えるといいかなとは思いました。

○大野分科会長 なるほど、そうですね。そこに向けての努力はしていきましょうということは申し上げてもいい気がします。できるところからやってみるということもあるかもしれない。

○梶間委員 やり方が分かっていたら、恐らくもうやっていると思うんですよね。ただ、中期目標期間の業績評価といっても、収支差額の評価をするわけでもないし、学校教育法の認証評価をもう一回やっている、みたいな気がしなくはないものですから。

○大野分科会長 貴重な御意見、ありがとうございます。

杉谷先生、お願いします。

○杉谷委員 今の梶間先生の御意見に賛同いたします。この内容は先生がおっしゃっているように認証評価とかなり重複する部分もありますし、実際に認証評価の結果も今回資料として出ているかと思えます。

特に産技大は、機関別の認証評価と専門分野別の認証評価と両方受けなければならないので、そういった意味での重複感も大きいかなと思います。

ですので、今後、コストとの関係等は先生が御専門分野かと思えますので、いろいろ御提案していただけたらいいと思いますが、評価の見直しの話も出ていますので、やはりそうした意味での重複をできる限り減らして、効果的な評価にできると望ましいと思えました。

感想ですが、以上です。

○大野分科会長 ありがとうございます。

おっしゃるとおりで、その方向性で進み始めるということかと思えます。

ほかにはいかがでしょうか。

大体出尽くしたでしょうか。よろしいですかね。

どうもありがとうございました。

それでは、第四期中期目標期間に向けた課題、法人への要望等、お出しいただいた御意見を事務局でまとめていただき、修正案をつくっていただくということをお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

それでは、本日、審議はこれで終了とさせていただきたいと思えます。

今後の作業につきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

○田邊大学調整担当課長 本日は長時間にわたりまして、御審議いただきましてありがとうございます。また、様々な御意見を頂戴しましてありがとうございます。

本日、御議論いただいた内容を踏まえ、項目別評価と全体評価について、素案を修正させていただきます。できるだけ早めに修正させていただいた上で、委員の皆様を送らせていただきますので、お送りした内容を御確認いただき、今週の金曜日、7月7日までに御意見等がございましたら、頂戴できればと考えてございます。

大変短い期間ではございますが、何とぞ御協力のほどよろしくお願いいたします。

○大野分科会長 ということ、今、田邊課長からお話ししていただいたような今後の作業の流れということでよろしゅうございましょうか。

(「結構です」と言う者あり)

○大野分科会長 ありがとうございます。

それでは修正したものを委員の皆様方に御確認いただくということで、短い期間ではございますが、よろしくお願いいたします。

また、評価案を法人に提示した後ですが、法人から出された意見に関しての調整は分科会長一任とさせていただき、調整後の内容について次回、第4回8月3日に皆様に御説明させていただくということで御了解いただければと思います。

よろしいですか。ありがとうございました。

では、そのように以後進めさせていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

本日、最後ですが事務局から今後のスケジュール等についての御説明をお願いいたします。

○田邊大学調整担当課長 ただいま分科会長からも御説明がありましたとおり、本日御審議いただいた内容と法人からの意見を合わせて、分科会長と内容の調整をさせていただきます。最終の評価案について、8月3日の第4回公立大学分科会で御審議いただく予定でございます。

その際には、財務諸表と利益処分案につきましても御報告をさせていただきます。

8月3日は午後3時から午後5時までを予定してございます。

また、詳細につきましては、追って御案内をさせていただきます。

事務局からの説明は以上でございます。

○大野分科会長 どうもありがとうございました。

次回の分科会は8月3日、3時から5時ということで予定させていただきますので、スケジュールの確保をお願いしたいと思います。

ほかに何か御発言ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、以上をもちまして、東京都地方独立行政法人評価委員会令和5年度第3回公立大学分科会を閉会といたします。

本日は、長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。